

嚙下造影検査、嚙下内視鏡検査、及び両検査の同時施行 ～各検査の利点と今後の課題～

言語聴覚療法室室長 桑原 生子

今年、「嚙下造影検査、嚙下内視鏡検査、及び両検査の同時施行～各検査の利点と今後の課題～」の演題で発表しました。当院で嚙下造影検査（VF）が開始されて約8年になりますが、この8年間で多くの職種の方の協力があり、VFと嚙下内視鏡検査（VE）との同時施行、さらにVE単独施行と嚙下障害の評価が広がっていきました。発表では、これまでの実績を踏まえて、各検査の利点と有効に施行していくための今後の課題についてまとめました。今回8月～9月にかけて日々の業務の中でVFとVEの検査が多く、その処理に追われ、時間的にも気持ちの上でもじっくりと考える余裕がないまま、発表3日前に院長先生にスライドを見ていただいた状態でした。院長先生に様々な指摘を受け、方向性がはっきりとし、それからエンジンがかかり、発表直前までパワーポイントに向かって、やっと完成できました。当院のセンターホールでの開催だったのも幸いでした。院長先生にはお忙しい中、いつも適切なアドバイスをいただき、本当に感謝しております。毎回、まとめきれていない部分を指摘していただき、「そうか!!」と方向性が見え、思考が深まり、まとまっています。今回、熟考する時間がとれず、準備に苦慮しましたが、8年間のことを発表でき心から良かったと思っています。ありがとうございました。



第58回
全日本病院学会
in 熊本
熊本市民会館
H28.10.8・9(土・日)



2病棟看護主任 山脇 直美

平成28年10月8日～9日に開催された「第58回全日本病院学会 in 熊本」に院長先生、佐光看護部長、新階主任と参加させて頂きました。

テーマは「地域医療大改革～豊かな未来への取り組みをくまもとから～」でした。

4月14日、16日に大地震があり、大きな被害を受けた熊本の復興にむけた取り組みをはじめ、さまざまな演題がありました。

当院からは、佐光看護部長の“5年間の看護部長面談から見えてくる成果”が発表されました。質の高い看護の提供をめざし部長面談を重ねることにより、個人の行動変容、職場環境、業務改善、モチベーションアップなどにより、自主的な外部研修参加、さらに職員の紹介による入職者増加などの成果を発表されました。とても力強く心に響きました。

他の多くの演題発表では、当院でも取り入れている、口腔ケア、褥瘡の処置などの発表もあり自信にもなり大きな学びにもなりました。

熊本大地震に関連した演題には、とても心を打たれました。また、被災した熊本城や街並みを直接見て、とても衝撃をうけました。

“災害はいつおこるか分からない”災害がおこった場合、自分の身の安全、安否確認の方法、情報収集の難しさ、震災発生時の対応など、もし、その時、自分に何ができるのか考える瞬間でした。災害を意識し考えることが何より大切だと思いました。

今回、学会に参加し、多くの学びがあり有意義な時間でした。本当にありがとうございました。



医療法人つくし会 南国病院
地域オープンセミナー

みんなで
考えよう! 認知症

2016年10月22日(土)
14:00 ~ 16:00
後援: 南国市

医療法人つくし会 南国病院
在宅医療支援センター4階
センターホール

「認知症の人の気持ち、家族や周囲の接し方」

佐藤政子 氏 (認知症の人と家族の会 高知県支部世話人代表)

「ヘルプマンを通して考える認知症」

くさか里樹 氏 (漫画家 ヘルプマン作者)

インタビュアー 川添哲嗣 (南国病院 薬剤部長)

「認知症初期集中支援について(南国市の取り組みを中心に)」

中澤宏之 (医療法人つくし会 南国病院 理事長・院長)



薬剤部 薬剤師 椎葉 貴行

10月22日当院において「みんなで考えよう！認知症」と題した地域オープンセミナーが開催され、数多くの地域の方々にお越しいただきました。

最初のプログラムは認知症の人と家族の会高知県支部世話人代表佐藤政子先生の「認知症の人の気持ち、家族や周囲の接し方」という講演でした。この講演では、先生自身が認知症の人々と長年接してきた経験から、認知症の人と

接する際のヒントとなる大切なことを数多く教えて下さいました。その中でも特に印象に残ったのは、日々の暮らしを維持することが大切という考えです。認知症の人の日常生活行動に対して「余計な事をしないで！」と制限してしまうと、制限していないことまでどんどんできなくなってしまうので、可能な限りできることをやってもらうことで、残された能力を長く保持できるように接するのがよいというお話でした。

次のプログラムは漫画家くさか里樹先生の「ヘルプマンを通して考える認知症」という対談形式の講演でした。この講演では、当院薬剤部長の川添がインタビュアーとなり、「ヘルプマン」という作品に込められた思いを教えてくださいました。この講演でも大切なヒントを多く教えていただきましたが、特に印象に残ったのは、認知症の人を「認知症」という色眼鏡で見た接し方の弊害についてです。例えば朝会うといきなり「今日は何月何日ぞね」などと刺々しく質問するなどの接し方をしてしまうと、その人の自尊心を傷つけたり混乱を招いたりして人間関係の悪化を招いてしまいやすいので、その時のその人自身をきちんと見て、気持ちに寄り添う事が大切というお話でした。



3題目は当院院長で理事長の中澤宏之による「認知症初期集中支援について～南国市の取り組みを中心に～」という講演でした。この講演では現在南国市で行われている認知症初期集中支援の取り組みが紹介され、その中で認知症の人や家族への支援の内容も紹介されており、私も一人の医療職としてそれらのことを日々実践していかなければならないと改めて思いました。

最後には講師の先生方への質問タイムもあり、活発な質疑応答も行われ非常に充実した地域オープンセミナーでした。

